

授業科目名	演劇ワークショップ実習C	担当教員	山内 健司 田上 豊
必修の区分	選択		
単位数	2単位		
授業の方法	実習		
開講年次	2年第2クォーター		
講義内容	この授業の目的は、短期間で集中して（夏季集中講義）「豊岡についての作品を、豊岡でつくり、豊岡で上演する」こと。しゃべり言葉を調べるフィールドワークを行い、「豊岡ノート」という作品をつくる。戯曲のセリフが書かれた話し言葉であるのに対し、私たちがしゃべっている本物の話し言葉の複雑さ豊かさとむきあい、言葉が生成されることの不思議さに触れ、言葉を生成する演技という行為の本質とむきあう。豊岡の街に出て、気になる人にインタビューを試み、「今」のリアルな一期一会の会話を採集。採集したテキストを、詳細に分析し、それをもとに作品「豊岡ノート」を製作、上演する。演技という窓から、他者を訪れる試み。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 私たちがしゃべっている言葉そのものの複雑さ豊かさについて述べることができる。 2. 街で出会うしゃべり言葉に分け入り、他者を演じることができる。 3. 豊岡についての作品を、豊岡でつくり、豊岡で上演することができる。 		
授業計画	<p>8日間の集中講義（1日6時間）で実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自分のしゃべり言葉を調べる 相手のしゃべり言葉を調べる 2. フィールドワーク準備：豊岡の街をみんなで歩く・インタビュー練習 3. フィールドワーク実践 4. 採集テキストの発表～演技として作品化1：戯曲として取り扱う 5. 創作パート企画～演技として作品化2：出来事を起こす 6. 試作発表 7. ブラッシュアップ 8. 「豊岡ノート」：発表と振り返り 		
事前・事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ・発表にむけての個人的な準備（リサーチ、セリフ入れ、演技の課題設定）を十分に行なって授業に臨むこと。 ・あわせて、相手役との練習を十分に行なって発表に臨むこと。 		
テキスト	なし		
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・各回の授業において参考資料を配付する。 ・授業内で参考文献等を適宜紹介する。 		
成績評価の基準	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内での取り組み・発言（50%） ・発表における取り組み・発言（50%） 		
履修上の注意 履修要件			
実践的教育	芸術文化分野の実務経験を持つ教員が、その実務経験を生かして教授することから、実践的教育に該当する。		
備考欄	定員超過の場合は、抽選などで選考する場合があります。		

